

(別添2)

## 事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所  
事業所名 社会福祉法人 臼田保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>□ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>○『和を大切に子ども一人一人が生き生きと集団生活を送り、保護者に寄り添い、地域に愛される保育園を目指す』という園の保育理念に基づき保育課程が作成されています。</p> <p>その保育課程を具体化するために家庭の状況や地域の実態などを考慮して保育課程を編成することが望まれます。</p> <p>○保育課程を保育計画に生かし、どの保育士も1年を通して偏りのない保育を目指すよう月案から週日案、個別指導案にと一貫性、連続性を大切にされています。</p> <p>○週日案では、職員間で話し合いながら子どもの発達や興味関心に沿い立案しているため、実践に対する評価・反省を活かした保育が行われています。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>□ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>○各部屋に空気清浄機が配置され、二酸化炭素濃度を測る機械も設置されるなど、子どもが安全に快適に過ごせる状態に保持されていました。</p> <p>○一人ひとりの子どもがゆったり過ごせるよう、手作りのパーテーションが置かれ発達に合わせた遊具が用意され、創意工夫がみられます。</p> <p>○防火頭巾やヘルメットが、園児それぞれに用意され安心感がありました。また、クラスごとにマスクかけやマスク置きなど衛生的な配慮がされていました。</p> <p>○トイレは、職員が常に清潔であるよう意識し配慮がされていました。手洗い場では手拭きタオルが密接してフックにかけられているため、通気性が悪い状態が見られました。物理的に難しいとは思いますが改善が望まれます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>□ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>○個々の家庭環境や生活リズム、発達過程を職員全員が把握し、担任を中心に加配保育士や補助の保育士がチームとして子どもと関わり子どもの気持ちに沿った保育をしています。</p> <p>○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、保育士が ゆったりと対応し子どもの気持ちにそった言葉がけやスキンシップに心をかけていました。</p> <p>○子どもの生活や遊びが主体的なものとなるよう、せかさずじっくり待つ姿勢が大切であるということに、職員は気づき反省する姿がアンケートから伺えました。今後、園内研修を通して質の向上を目指していただきたい。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士自身がその大切さを理解して援助をしています。</p> <p>○自分でやろうとする気持ちを大切にしてい、できたという達成感を味わえるようにしています。子どもの発達に合わせて、一人ひとりに合わせた基本的な生活習慣の習得ができる支援の工夫をしていました。</p> <p>○遊びや食事、休息等、子どもの生活リズムに沿って一日の流れが設定されています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○各遊びのコーナーを設け、子どもの興味関心に沿った環境構成や素材を用意し、子どもが主体的に取り組める保育の工夫が見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した自然物（木の実や葉っぱなど）で制作をしたり遊びを創り出したり、ザリガニやどじょうを飼育したり環境が整えられています。</li> <li>・段ボールや廃材など様々な素材を用いて子どもたちが自由に制作遊びが楽しめるような時間を設定し、やりたいことができるよう用具が揃えられています。</li> </ul> <p>○なるべく戸外活動を多く取り入れ散歩や体操、マラソンなど年齢や体力を考慮したプログラムになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳沢運動プログラムを取り入れている。</li> <li>・子どもの希望に沿い異年齢でグループ分けし散歩に行く。</li> </ul> <p>○現在はコロナ禍のため、お年寄りとの交流などの活動はできませんが、散歩などでは積極的に子どもたちから挨拶するなどして、地域に親しむよう努力しています。また、戸外活動ではマナーや社会生活のルールを知るなど様々な体験ができています。</p> <p>○子どもの発想や意欲を大切に様々な表現ができるように環境が整えられ、保育士もその思いに共感して具現化する手伝いをしていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○発達著しく個人差も大きい乳児期の保育にあたり、食事や睡眠等の基本的な生活リズムを整えながら、言語や運動機能の発達を促すような環境を作っていました。</p> <p>○子どもの発達をふまえた手作り玩具などを用意し、ゆっくりと優しく話しかけるなど、温かく受容的、応答的に関わり援助していました。</p> <p>○保護者との連絡ノートや送迎時のやり取りから健康状態の把握やその日の心身の状態、またできるようになったことを共に喜び合うなど保護者との連携が密にできていました。</p> <p>○0歳児では、愛着心を育てるため特定の保育士と関わる体制が整っており、安定した生活ができるよう配慮されています。</p> <p>○0歳児と1歳児が同じ保育室であるため、年齢差と異なる生活リズムを考慮した環境設定と配慮がされています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 40	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分ですらんとする気持ちを尊重している。	○個々の発達や興味の差が大きい時期のため、それぞれに合った遊びのコーナーを設け、手作りのパーテーションで、区切るなどの工夫をしていました。 ○生活に必要な基本的習慣については、保護者との連携（連絡ノートや面談）を心掛け、一人ひとりの状態に応じた対応がされています。 ○手作り玩具を用意し子どもの興味や発達に応じた経験ができるように工夫されました。 ○保育室は二階にあり、特に年長児クラスの子どもたちとの関わりや遊びなどの姿を見る機会が多く取られています。 ○個々の健康や発達の状態を考慮した保育がされ、複数担任である利点を生かし個別の対応を心掛けていました。
				■ 41	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	
		■ 42	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。			
		■ 43	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。			
		■ 44	保育士等が、友だちとの関わりや仲立ちをしている。			
		■ 45	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。			
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 46	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	○保育士主導の保育とならないよう常に振り返りながら、年齢に応じて基本的な生活習慣の自立へ向けて家庭との連携を通じて取り組んでいます。 ○主体的な遊びのきっかけとして、室内環境を整え肯定的な言葉がけをするなど子どもの意欲を高めていました。 ○当番活動等を通して友だちとの関りを深めたり自分の役割を果たそうとする気持ちが育っています。 ○育てほしい10の姿について、保育計画や日々の保育実践の中で育つよう配慮されており、保護者や小学校等に伝えていきます。
				■ 47	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■ 48	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■ 49	5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■ 50	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の間わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>○建物の構造上（二階建て）配慮や工夫が必要ですが、人的環境については加配保育士の配置が手厚くされており努力が伺えます。</p> <p>○個別の指導計画が作成され、配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われています。（加配保育士の配置・職員間での情報共有と対応の一貫性）</p> <p>○室内の刺激を減らす環境づくりに工夫がされており、壁面装飾の簡略化などの実践がされています。</p> <p>○クールダウンする場合には、廊下や一時保育室などを活用し、個々のケースに応じた配慮がされています。</p> <p>○加配保育士だけでなく、担任も研修に参加し、研鑽に努めています。ただ、研修した内容の共有化については、職員会などで報告、回覧の徹底など、工夫が必要かと思われれます。</p> <p>○保護者との連携を密にし、市の育み相談などでの助言を共有し実践していますが、保護者全体への情報を伝える取り組みも期待されます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○3歳以上児と未満児をの部屋を分け、子どもが安心できるような言葉がけや対応など、くつろいだ雰囲気でも過ごせるように工夫がされています。</p> <p>○長時間にわたる保育を利用する子どもには、更なる環境の配慮が必要です。3～5歳児は異年齢保育になるため、トラブルや怪我が起きないように常に細心の注意を払っています。</p> <p>○保育士間での正確な伝達は、連絡を密にし子どもの姿について共有できるように努めています。場合によっては担任が残り直接保護者と話すようにしています。</p> <p>○子育て支援の一環として、保護者の急な保育時間の延長にも快く応えていることが保護者アンケートからも伺えました。</p>	
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>□ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持つ機会が設けられている。</li> <li>□ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持つ機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○小学校との交流を積極的に行い、子どもが小学校への期待が持てるよう交流の機会が設けられていました。小学校からは保育園での生活の様子を見学に来ています。また、子どもたちは日頃から小学校へ散歩に行き校庭で遊ぶなど慣れ親しんでいます。</p> <p>○子どもや保護者が小学校以降の生活に見通しが持てるような取り組みを、指導計画の中に明記し、具体化していくことが望まれます。</p> <p>○小学校職員と保育園職員で定期的に情報交換等の連携が行われ、共通理解が図られています。保育園での生活から積み重ねられた様々な育ちを共有し連続性もてるように育てたい力、望ましい姿の見通しをもって子どもの発達状況を確認しあったり、特に配慮が必要な子どもへの援助についても連携が図られています。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○保護者との連携を密にし、安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○SIDS等、午睡時に起こりやすい異変に対処するため、3歳未満児では午睡時に定期的にチェックをし、記帳するなどの配慮が見られました。（0歳：5分に1回、1.2歳児：10分に1回）</p> <p>○子どもの健康管理マニュアルが明文化され、保護者にも伝えてあります。</p> <p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○専門機関との連携の仲立ちをしています。</p> <p>○入園案内や保護者会総会などの場で園の安全対策について知らせています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○健康診断の結果を速やかに伝えていきます。必要に応じて結果に伴う保護者支援をしています。</p> <p>○佐久市全体の取組として、浅間総合病院と連携し、平成30年度から年長児のフッ素洗口による虫歯予防に努めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○アレルギーによる食事の除去については医師の診断書をもとに栄養士、園長、担任等が保護者と面談の上適切に対応しています。</p> <p>○3歳未満児については、誤食やこぼして床に落ちたものに触るなど思いがけない事故につながるため、その部屋で食事するすべての子どもや担任もアレルギー対応食を食べる徹底した対応がとられていました。</p> <p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されてきました。職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われていました。</p> <p>○3歳以上児では、アレルギー食の提供にはトレーを用い間違いなく提供できるように工夫をしていました。また、本人もクラスの子どものもしっかり理解できるように、クラスでアレルギーの起こりうる食品があるときは○×で表示していました。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>□ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○コロナ禍の影響でアクリル板、黙食が基本となり、その代わり音楽をかけるなど工夫されていました。</p> <p>○保育士との連携により活動計画に、クッキング保育(ホットケーキ・ポップコーン・しそジュース・ヨモギ団子など)やおやつ会、菜園活動など位置づけています。(コロナ禍により中止となったものあり)</p> <p>○給食員は喫食状況について、現状では一緒に食べることは出来ないが、保育士との連絡を取り合い子どもたちの様子を知り、給食づくりに生かしていました。</p> <p>○給食室の廊下壁面に、園児の食への興味や関心につなげるような視覚支援となるものがあると、子どもたちがさらに興味や関心が持てるのではないかと思います。</p> <p>○保護者への支援として給食だよりやレシピの紹介などが行われていました。それにより、保護者の作ってみたいと思えるような意欲につなげ子どもの食に関心を持てるようにしていました。</p>	



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努め、特に39(佐久の日)を設け、佐久市の品物を取り入れています。</p> <p>○保護者からレシピがほしいなどの申し出もあり、家庭にも関心を持ってもらい、食育の共有を図り連携に努めています。</p> <p>○給食員はおやつの際に各クラスの状況を見たり子どもの声を聴くなど、コミュニケーションをとることを心掛けていました。保育士との連携でも喫食状況や要望など聞いたり食についての相談を受けたりしています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○年度当初の保護者会や、入園のおしおり、月々の園だより、連絡ノートなどを用いて日常の活動を知らせています。</p> <p>○保護者の意向に耳を傾け希望や疑問に応えられるよう必要に応じて相談を受け保護者の安心が得られるよう丁寧に対応しています。</p> <p>○家庭訪問や保護者会、個別懇談会などの機会に保護者からの要望を把握したり不安がないよう取り組んでいます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○日々、登降園の際に声掛けや気軽に相談を受ける雰囲気づくりに心がけ、保護者との信頼関係を築いていました。</p> <p>○保護者にとって必要な情報や活動の様子を園だよりや掲示板等でタイムリーに提供することで保護者の安心や信頼が得られています。</p> <p>○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○相談場所はプライバシーに配慮し担任だけでなく時には園長も同席して保護者の支援をしています。</p> <p>○相談内容は適切に記録、保管しています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○虐待についての研修会に代表で参加していますが、伝達や回覧の徹底を図り全職員で学びを共有出来るよう期待しています。</p> <p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる場合は保護者のプライバシー等に配慮し関係機関との連携をとる仕組みがあります。</p> <p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察したり保護者との関わりに配慮しています。</p> <p>○園長を窓口として対応しますが、対応マニュアルに基づく職員研修を実施し、全職員が意識し組織的な取り組みができることが更に期待されます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	c)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>□ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>□ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>□ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育士一人ひとり、保育実践の振り返りが出来ていました。保育実践の振り返り（日々の保育の反省、定期的な毎月の反省など）を職員会や園内研修を通じて定期的、体系的に行うことの難しさを感じました。年度途中であっても指導計画の修正をして子どもの育ちに沿った保育をすすめることができるよう願っています。</p> <p>○自己評価や指導案の評価・反省を活かし、保育の質の向上に向けた組織的な取組が更に充実することを期待します。</p>